

平成二十七年
泉

国造神社

神社の成り立ち

日本の神様の古い歴史を記した「古事記」には、たくさんのお神様が登場します。

太陽の明るさと暖かさを持った神様や、海の恵みを与えてくれる神様、ご飯を造る神様や、洋服を造る神様など、人間が生きていく中で必ず神様と関係することがあるとされています。

人間を大切にしてくれる神様が居るから、私達人間も神様を大切にする。お互いに認め合い、助け合うことが大切だと伝える日本の神様達の為に、雨風から守る家を建てたことが、神社の始まりとされています。

人間に家がある場所には、必ず神様の家もある、これが日本の昔からの風景なのでしよう。

国造神社の歴史

ご祭神

大兄彦命

大国主命

鎮座地

金沢市泉一丁目二十一番六号

お祭り

歳旦祭 一月一日

春季祭 四月十一日、十三日

祈年祭 四月十二日

秋期祭 九月二十一日、二十三日

新嘗祭 十二月十三日

創建

天平勝宝三年(751年)と考えられる

由緒

創建来地元氏子住民の崇敬は大変篤く、歴史文書への記載が残る中では江戸時代の加賀藩政期にさかのぼることが出来ます。

そこには、加賀藩初代藩主前田利家公より虚空蔵仏一体を当神社に奉納されたとあり、当時は虚空蔵の宮とも呼ばれていたようです。こういった経緯の中で、神社としての格式とお寺としての格式を併せ持つお宮として、いまでもみんなに愛されています。

また、同じ境内地に建つ摂社菅原神社には、学問の神様でもある菅原道真公が奉られています。

菅原道真公は、前田家の先祖と言われており、大聖寺藩主・加賀藩藩主を歴任してきた前田家との深い繋がりがうかがえます。

御神木

ケヤキ 樹齢四百年

特別なお祭り

いり粉祭

漆職人が漆を塗る際に、麦を煎つてすり潰し粉にしたものを混ぜて塗っていました。

泉の町には、漆塗り職人が多く住んでいたことから、漆塗りに関するお祭りが発生したものと考えられています。

そしてこのお祭りは十二月十三日に行われていて、主に冬に行われる漆塗りの職人技に間違いが無い様に、またより良い漆器が完成するようにとの願いが込められていたに違いありません。

しかし、今ではこのお祭りは行われなくなつてしまいました。

神様の存在と共に過ごすこと

神の恵みと祖先の恩とに感謝し、
明き清き誠を持ちて祭祀にいそしむこと。

世の為人の為に奉仕し、
神のみこともちとして世を造り固め成すこと。

大御心をいただきて、むつび和らぎ、
国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること。

平成二十七年秋

国造神社